



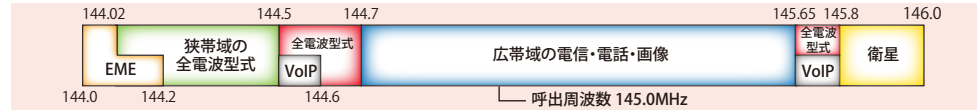
アマチュアバンド使用区別早見表 (144MHz帯、50MHz帯、430MHz帯)

広帯域の電信・電話・画像

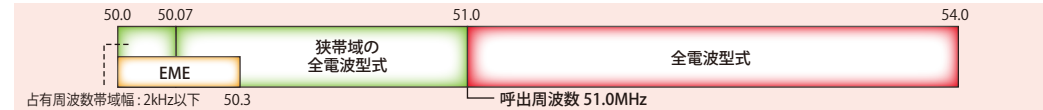
全電波型式

電話(FMトランシーバー)の運用は、この範囲内に限られています。

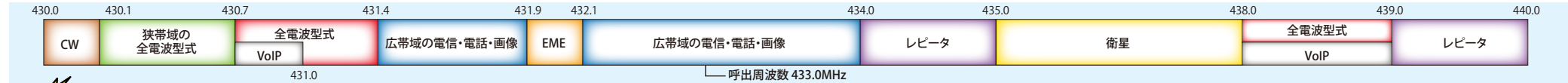
VHF帯 144MHz帯 [単位:MHz]



50MHz帯 [単位:MHz]



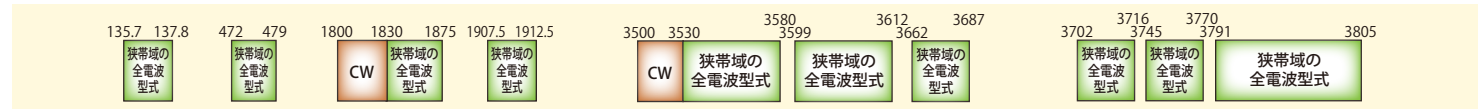
UHF帯 430MHz帯 [単位:MHz]



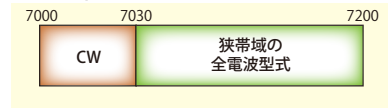
アマチュアバンド使用区別早見表 (MF帯、HF帯、UHF帯、SHF帯)

運用しようとする周波数・用途・電波の型式を確認して、使用区別を守って運用しましょう。

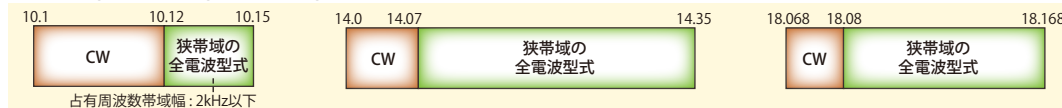
MF/HF帯 135kHz帯/475kHz帯 1.9MHz帯/3.5MHz帯/3.8MHz帯 [単位:kHz]



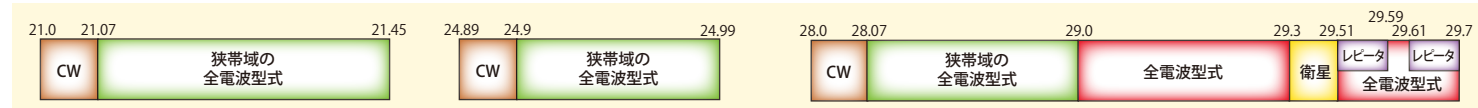
7MHz帯 [単位:kHz]



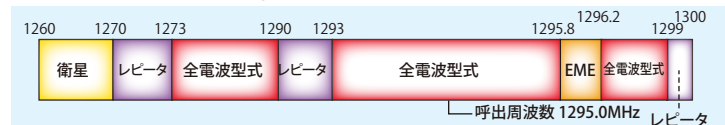
10MHz帯/14MHz帯/18MHz帯 [単位:MHz]



21MHz帯/24MHz帯/28MHz帯 [単位:MHz]



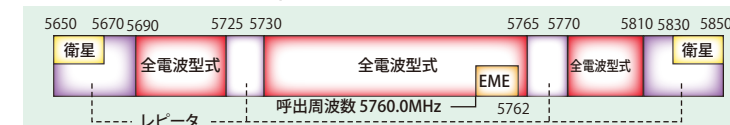
UHF帯 1200MHz帯 [単位:MHz]



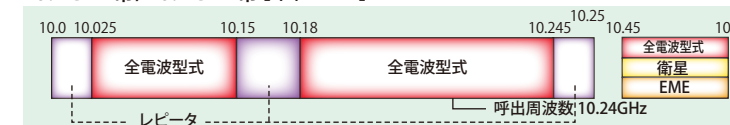
2400MHz帯 [単位:MHz]



SHF帯 5600MHz帯 [単位:MHz]



10.1GHz帯/10.4GHz帯 [単位:GHz]



使用区別の見方

全電波型式	・全ての電波の型式
CW	・モールス符号により搬送波を断続して行う通信
狭帯域の全電波型式	<ul style="list-style-type: none"> ・占有周波数帯域幅が3kHz以下の通信 (135kHz帯、475kHz帯及び1907.5kHzから1912.5kHzまでにあつては占有周波数帯域幅が500Hz以下) ・(A3Eにあつては占有周波数帯域幅が6kHz以下) ・モールス符号により搬送波を断続して行う通信 (CW) ・SSB、AM等の振幅変調方式の送信機を使った電話通信 ・AMモードでマイクロホン端子に電鍵などで断続した可聴周波数のモールス符号を入力して行う通信 ・SSBモードによるSSTV・FAX等の通信 ・FT4・FT8・RTTY・PSK31等のデータ伝送
広帯域の電信・電話・画像	<ul style="list-style-type: none"> ・占有周波数帯域幅が3kHzを超える通信 ・FM、D-STAR (DV) モード等による電話通信 ・FMモードでマイクロホン端子に電鍵などで断続した可聴周波数のモールス符号を入力して行う通信 ・FMモードによるSSTVやFAX等の通信 ・VoIP、RTTY及びデータ伝送を除く
VoIP	・音声圧縮してパケットに変換した上で、インターネット接続網を介した通信 (エコーリンク、WIRELESS、D-STARアクセスポイントモード等)
衛星	・人工衛星を利用して行う通信
EME	・月面反射通信
レピータ	<ul style="list-style-type: none"> ・中継局を介して行う通信 ・SHF帯のデータ通信において、中継局間を結ぶ通信 (アシスト局)
呼出周波数	・F2A又はF3Eにより連絡設定を行う通信

※この区別表は、令和5年9月25日現在のものです。

この使用区別に違反して運用した場合は、電波法に基づき無線局の運用停止などの行政処分の対象となります。

- 無線機にセットする送信周波数は、その占有周波数帯幅を十分に考慮し、いかなるエネルギーの発射もこのアマチュアバンド内に収まるようにし、エッジ(端)周波数はセットしないでください。(無線局運用規則第257条)
- 各使用区別ごとの上限周波数は、当該周波数区別に含まれますが、下限周波数は含まれませんのでご注意ください。

※詳しくは「アマチュア局用電波法令集抄録」や「総務省 電波関係法令集 (https://www.tele.soumu.go.jp/horei/law_menu.html)」等をご覧ください。(電波法第61条、無線局運用規則第258条の2、令和5年総務省告示第80号 令和5年9月25日施行)